



## コマンドラインインターフェースの概要

- ライセンス要件 (1 ページ)
- CLI プロンプトについての情報, on page 1
- コマンドモード, on page 2
- CLI 変数の設定, on page 8
- コマンドエイリアス, on page 8
- コマンドスクリプト, on page 9
- 正規表現について, on page 10
- show コマンド出力の検索とフィルタリング, on page 10
- コマンド履歴の使用方法 (12 ページ)
- CLI の使用例, on page 15
- CLI に関するその他の参考資料, on page 15

## ライセンス要件

Cisco NX-OS ライセンス方式の推奨の詳細と、ライセンスの取得および適用の方法については、『[Cisco NX-OS ライセンス ガイド](#)』および『[Cisco NX-OS ライセンス オプションガイド](#)』を参照してください。

## CLI プロンプトについての情報

デバイスに正常にアクセスすると、コンソールポートのターミナルウィンドウまたはリモートワークステーションに、次の例のような CLI プロンプトが表示されます。

```
User Access Verification
login: admin
Password:<password>
Cisco Nexus Operating System (NX-OS) Software
TAC support: http://www.cisco.com/tac
Copyright (c) 2002-2009, Cisco Systems, Inc. All rights reserved.
The copyrights to certain works contained in this software are
owned by other third parties and used and distributed under
license. Certain components of this software are licensed under
```

```
the GNU General Public License (GPL) version 2.0 or the GNU
Lesser General Public License (LGPL) Version 2.1. A copy of each
such license is available at
http://www.opensource.org/licenses/gpl-2.0.php and
http://www.opensource.org/licenses/lgpl-2.1.php
switch#
```

デフォルトのデバイス ホスト名を変更できます。

CLI プロンプトから、次の方法を実行できます。

- 機能を設定するための CLI コマンドを使用する
- コマンド履歴にアクセスする
- コマンド解析機能を使用する



**Note** 通常の動作では、ユーザ名の大文字と小文字が区別されます。ただし、コンソールポートを介してデバイスに接続する場合、ユーザ名がどのように定義されているかに関係なく、すべて大文字でログインユーザ名を入力できます。正しいパスワードを入力すれば、デバイスにログインできます。

## コマンドモード

ここでは、Cisco NX-OS CLI でのコマンドモードについて説明します。

### 特殊文字

次の表に、Cisco NX-OS のテキストストリングで特別な意味を持つ文字を示します。正規表現あるいはその他の特有なコンテキストでのみ使用します。

**Table 1:** 特殊文字

| 文字  | 説明             |
|-----|----------------|
| %   | パーセント          |
| #   | ポンド、ハッシュ、または番号 |
| ... | 省略符号           |
|     | 縦線             |
| <>  | より小さい、またはより大きい |
| []  | 角カッコ           |

|     |      |
|-----|------|
| 文字  | 説明   |
| { } | 波カッコ |

## キーストローク ショートカット

次の表に、EXEC モードおよびコンフィギュレーション モードの両方で使用されるコマンド キーの組み合わせを示します。

**Table 2:** キーストローク ショートカット

| キーストローク | 説明   |
|---------|--|
| Ctrl+A  | カーソルを行の先頭に移動します。   |
| Ctrl+B  | カーソルを 1 文字左に移動します。複数行にわたってコマンドを入力するときは、左矢印キーまたは Ctrl+B キーを繰り返し押し続けてシステム プロンプトまでスクロールバックして、コマンド エントリの先頭まで移動できます。あるいは Ctrl+A キーを押してコマンド エントリの先頭に移動します。 |
| Ctrl+C  | コマンドを取り消して、コマンドプロンプトに戻ります。   |
| Ctrl+D  | カーソル位置にある文字を削除します。   |
| Ctrl+E  | カーソルを行の末尾に移動します。   |
| Ctrl+F  | カーソルを 1 文字右に移動します。   |
| Ctrl+G  | コマンド スtring を削除せずに、コマンド モードを終了して以前のコマンド モードに戻ります。  |
| Ctrl+K  | カーソル位置からコマンドラインの末尾までのすべての文字を削除します。   |
| Ctrl+L  | 現在のコマンドラインを再表示します。   |
| Ctrl+N  | コマンド履歴の次のコマンドを表示します。   |
| Ctrl+O  | 端末画面をクリアします。   |
| Ctrl+P  | コマンド履歴の前のコマンドを表示します。   |
| Ctrl+R  | 現在のコマンドラインを再表示します。   |
| Ctrl+T  | カーソルの下の文字を、カーソルの右にある文字と置き換えます。その後カーソルは 1 文字右に移動します。  |
| Ctrl+U  | カーソル位置からコマンドラインの先頭までのすべての文字を削除します。   |

| キーストローク        | 説明  |
|----------------|---|
| Ctrl+V         | 次のキーストロークに関する特別な意味を削除します。たとえば、正規表現で疑問符 (?) を入力する前に、Ctrl+V を押します。  |
| Ctrl+W         | カーソルの左にある単語を削除します。  |
| Ctrl+X、H       | 入力したコマンドの履歴を表示します。<br>このキーの組み合わせを使用するときは、Ctrl キーと X キーを同時に押しリリースしてから、H を押します。   |
| Ctrl+Y         | バッファ内の最新のエントリを呼び出します (キーを同時に押します)。  |
| Ctrl+Z         | コンフィギュレーションセッションを終了して、EXEC モードに戻ります。<br>有効なコマンドを入力してから、コマンドラインの最後で Ctrl+Z を使用すると、コマンドの結果の設定がまず実行コンフィギュレーションファイルに追加されます。 |
| 上矢印キー          | コマンド履歴の前のコマンドを表示します。  |
| 下矢印キー          | コマンド履歴の次のコマンドを表示します。  |
| 右矢印キー<br>左矢印キー | コマンドストリング上でカーソルを前後に移動して、現在のコマンドを編集します。  |
| ?              | 使用可能なコマンドのリストを表示します。  |

| キーストローク | 説明  |
|---------|---|
| タブ      | <p>ワードの最初の数文字を入力して Tab キーを押すと、ワードが補完されます。文字に一致するすべてのオプションが表示されます。</p> <p>タブを使用して、次の項目を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• コマンド名</li> <li>• ファイル システム内のスキーム名</li> <li>• ファイル システム内のサーバ名</li> <li>• ファイル システム内のファイル名</li> </ul> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# xm&lt;Tab&gt; switch(config)# xml&lt;Tab&gt; switch(config)# xml server</pre> <p>例 :</p> <pre>switch(config)# c&lt;Tab&gt; callhome class-map clock cts cdp cli control-plane switch(config)# cl&lt;Tab&gt; class-map cli clock switch(config)# cla&lt;Tab&gt; switch(config)# class-map</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# cd bootflash:&lt;Tab&gt; bootflash: bootflash://sup-1/ bootflash:/// bootflash://sup-2/ bootflash://module-5/ bootflash://sup-active/ bootflash://module-6/ bootflash://sup-local/</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# cd bootflash://mo&lt;Tab&gt; bootflash://module-5/ bootflash://module-6/cv switch# cd bootflash://module-</pre> |

## コマンドの短縮形

コマンドの最初の数文字を入力することで、コマンドおよびキーワードを省略できます。省略形には、コマンドまたはキーワードを一意に識別でき得る文字数を含める必要があります。コマンドの入力で問題が生じた場合は、システム プロンプトを確認し、疑問符 (?) を入力して

使用できるコマンドのリストを表示してください。コマンドモードが間違っているか、間違った構文を使用している可能性があります。

次の表に、コマンド省略形の例を示します。

**Table 3:** コマンド省略形の例

| コマンド                                      | 省略形                   |
|---|-----------------------|
| <b>configure terminal</b>                 | <b>conf t</b>         |
| <b>copy running-config startup-config</b> | <b>copy run start</b> |
| <b>interface ethernet 1/2</b>             | <b>int e 1/2</b>      |
| <b>show running-config</b>                | <b>sh run</b>         |

## 部分的なコマンド名の補完

完全なコマンド名を思い出せない場合や、入力の作業量を減らしたい場合は、コマンドの先頭の数字文字を入力して、**Tab** キーを押します。コマンドラインパーサーは、入力されたストリングがコマンドモードで一意である場合に、コマンドを補完します。キーボードに **Tab** キーがない場合は、代わりに **Ctrl-I** キーを押します。

コマンドは、コマンドが一意になるのに十分な文字が入力されていれば、CLIによって認識されます。たとえば、特権 EXEC モードで **conf** と入力すると、CLI はエントリを **configure** コマンドと関連付けることができます。これは、**conf** で始まるコマンドが **configure** コマンドのみであるためです。

次の例では、**Tab** キーを押したときに、CLI によって EXEC モードで **conf** の一意の文字列が認識されます。

```
switch# conf<Tab>
switch# configure
```

コマンド補完機能を使用すると、CLI により完全なコマンド名が表示されます。コマンドは、**Return** キーまたは **Enter** キーを押すまで、CLI によって実行されません。これにより、完全なコマンドが省略形によって意図したものでない場合に、コマンドを修正できます。入力した一連の文字に対して、対応するコマンドが複数ある場合は、一致するコマンドのリストが表示されます。

たとえば、**co<Tab>** と入力すると、EXEC モードで利用可能な、**co** で始まるすべてのコマンドがリストされます。

```
switch# co<Tab>
configure  copy
switch# co
```

コマンドエントリを補完できるよう、入力した文字は再びプロンプトに表示されることに注意してください。

## コマンド階層での場所の特定

一部の機能では、コンフィギュレーションサブモード階層が1つのレベル以上ネストされません。この場合は、Present Working Context (PWC) に関する情報を表示できます。

### SUMMARY STEPS

#### 1. where detail

### DETAILED STEPS

#### Procedure

|        | Command or Action  | Purpose     |
|--------|--|-------------|
| ステップ 1 | <p><b>where detail</b></p> <p><b>Example:</b></p> <pre>switch# configure terminal switch(config)# interface mgmt0 switch(config-if)# where detail mode:                conf                     interface mgmt0 username:            admin</pre> | PWC を表示します。 |

## コマンドの no 形式の使用方法

大部分の構成コマンドには **no** 形式があり、これを使用して、機能を無効化したり、デフォルト値に戻したり、設定を削除したりできます。Cisco NX-OS コマンドリファレンスの資料では、コマンドの **no** 形式が使用できる場合は、**no** 形式の機能について説明しています。

次に、機能をディセーブルにする例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# feature tacacs+
switch(config)# no feature tacacs+
```

次に、機能をデフォルト値に戻す例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# banner motd #Welcome to the switch#
switch(config)# show banner motd
Welcome to the switch

switch(config)# no banner motd
switch(config)# show banner motd
User Access Verification
```

次に、機能の設定を削除する例を示します。

```
switch# configure terminal
switch(config)# radius-server host 10.10.2.2
switch(config)# show radius-server
retransmission count:0
timeout value:1
deadtime value:1
total number of servers:1

following RADIUS servers are configured:
 10.10.1.1:
    available for authentication on port:1812
    available for accounting on port:1813
 10.10.2.2:
    available for authentication on port:1812
    available for accounting on port:1813

switch(config)# no radius-server host 10.10.2.2
switch(config)# show radius-server
retransmission count:0
timeout value:1
deadtime value:1
total number of servers:1

following RADIUS servers are configured:
 10.10.1.1:
    available for authentication on port:1812
    available for accounting on port:1813
```

次に、EXEC モードでコマンドの **no** 形式を使用する例を示します。

```
switch# cli var name testinterface ethernet1/2
switch# show cli variables
SWITCHNAME="switch"
TIMESTAMP="2009-05-12-13.43.13"
testinterface="ethernet1/2"

switch# cli no var name testinterface
switch# show cli variables
SWITCHNAME="switch"
TIMESTAMP="2009-05-12-13.43.13"
```

## CLI 変数の設定

ここでは、Cisco NX-OS CLI の CLI 変数について説明します。

## コマンドエイリアス

ここでは、コマンドエイリアスについて説明します。

# コマンドスクリプト

ここでは、複数のタスクを実行するためにコマンドのスクリプトを作成する方法について説明します。

## 状況依存ヘルプ

Cisco NX-OS ソフトウェアの CLI には、状況依存ヘルプが用意されています。コマンド内の任意の位置に疑問符 (?) を使用することで、有効な入力オプションを表示できます。

CLI では、入力エラーを特定するためにキャレット (^) 記号が使用されます。^記号は、コマンドストリング内の誤ったコマンド、キーワード、または引数が入力された位置に表示されません。

次の表に、状況依存ヘルプの出力例を示します。

**Table 4:** 状況依存ヘルプの例

| 出力例  | 説明   |
|--|--|
| <pre>switch# clock ?   set HH:MM:SS Current Time switch# clock</pre>                               | <p>EXEC モードでの <b>clock</b> コマンドのコマンド構文を表示します。</p> <p>switch の出力は、<b>clock</b> コマンドを使用するには <b>set</b> キーワードが必要であることを示しています。</p> |
| <pre>switch# clock set ?   WORD HH:MM:SS Current Time switch# clock set</pre>                      | <p>時刻を設定するためのコマンド構文を表示します。</p> <p>ヘルプ出力は、クロックの設定に現在時刻が必要であること、および時刻のフォーマット方法を示しています。</p>                                       |
| <pre>switch# clock set 13:32:00&lt;CR&gt; % Incomplete command switch#</pre>                       | <p>現在時刻を追加します。</p> <p>CLI は、コマンドが不完全であることを示しています。</p>  |
| <pre>switch# &lt;Ctrl-P&gt; switch# clock set 13:32:00</pre>                                       | <p>入力した直前のコマンドを表示します。</p>  |
| <pre>switch# clock set 13:32:00 ?   &lt;1-31&gt; Day of the month switch# clock set 13:32:00</pre> | <p><b>clock set</b> コマンドに対する追加の引数を表示します。</p>   |

| 出力例  | 説明  |
|--|---|
| <pre>switch# clock set 13:32:00 18 ? April      Month of the year August     Month of the year December   Month of the year February   Month of the year January    Month of the year July       Month of the year June       Month of the year March      Month of the year May        Month of the year November   Month of the year October    Month of the year September  Month of the year switch# clock set 13:32:00 18</pre> | <p><b>clock set</b> コマンドに対する追加の引数を表示します。</p>                        |
| <pre>switch# clock set 13:32:00 18 April 08&lt;CR&gt; % Invalid input detected at '^' marker.</pre>  | <p>クロック設定に日付を追加します。<br/>CLIは、08の位置にキャレット記号 (^) を使用してエラーを示しています。</p> |
| <pre>switch# clock set 13:32:00 18 April ? &lt;2000-2030&gt; Enter the year (no abbreviation) switch# clock set 13:32:00 18 April</pre>  | <p>この年に対応する適切な引数を表示します。</p>   |
| <pre>switch# clock set 13:32:00 18 April 2008&lt;CR&gt; switch#</pre>  | <p><b>clock set</b> コマンドの正しい構文を入力します。</p>                           |

## 正規表現について

Cisco NX-OS ソフトウェアは、CLI 出力 (**show** コマンドなど) の検索またはフィル処理で正規表現をサポートしています。正規表現では大文字と小文字が区別され、また複雑な一致要件を設定することができます。

## show コマンド出力の検索とフィルタリング

多くの場合、**show** コマンドの出力は、長くて煩雑になります。Cisco NX-OS ソフトウェアでは、情報を簡単に見つけ出すために、出力の検索およびフィルタリングを行うことができます。検索およびフィルタリングのオプションは、**show** コマンドの末尾にパイプ記号 (|) を付け、その後に指定します。これらのオプションは、CLI 状況依存ヘルプ機能を使用して表示できます。

```
switch# show running-config | ?
cut      Print selected parts of lines.
diff     Show difference between current and previous invocation (creates temp files:
remove them with 'diff-clean' command and don't use it on commands with big
outputs, like 'show tech'!)
```

```

egrep    Egrep - print lines matching a pattern
grep     Grep - print lines matching a pattern
head     Display first lines
human    Output in human format
last     Display last lines
less     Filter for paging
no-more  Turn-off pagination for command output
perl     Use perl script to filter output
section  Show lines that include the pattern as well as the subsequent lines that are
         more indented than matching line
sed      Stream Editor
sort     Stream Sorter
sscp     Stream SCP (secure copy)
tr       Translate, squeeze, and/or delete characters
uniq     Discard all but one of successive identical lines
vsh      The shell that understands cli command
wc       Count words, lines, characters
xml      Output in xml format (according to .xsd definitions)
begin    Begin with the line that matches
count    Count number of lines
end      End with the line that matches
exclude  Exclude lines that match
include  Include lines that match
    
```

## --More-- プロンプトからの検索およびフィルタリング

**show** コマンド出力の --More-- プロンプトで出力の検索やフィルタ処理を実行できます。

次の表に、--More- プロンプト コマンドの説明を示します。

**Table 5: --More-- プロンプト コマンド**

| コマンド                                | 説明   |
|-------------------------------------|--|
| [lines]<space>                      | 指定した行数か現在の画面サイズ分の出力行を表示します。  |
| [lines]z                            | 指定した行数か現在の画面サイズ分の出力行を表示します。 <i>lines</i> 引数を使用すると、その値が新しいデフォルト画面サイズになります。                                      |
| [lines]<return>                     | 指定した行数か現在のデフォルトの行数で出力行を表示します。初期のデフォルトは 1 行です。オプションの <i>lines</i> 引数を使用すると、その値がこのコマンドで表示する新しいデフォルトの行数になります。     |
| [lines]d または<br>[lines]Ctrl+shift+D | 指定した行数か現在のデフォルトの行数で出力行をスクロールします。初期のデフォルトは 11 行です。オプションの <i>lines</i> 引数を使用すると、その値がこのコマンドで表示する新しいデフォルトの行数になります。 |
| q または Q または<br>Ctrl-C               | --More-- プロンプトを終了します。  |
| [lines]s                            | 指定した行数か現在のデフォルトの行数だけ出力をスキップし、1 画面分の出力行を表示します。デフォルトは 1 行です。   |

| コマンド               | 説明  |
|--------------------|---|
| [lines]f           | 指定した画面数か現在のデフォルトの画面数だけ出力をスキップし、1画面分の出力行を表示します。デフォルトは1画面です。  |
| =                  | 現在の行番号を表示します。   |
| [count]/expression | 正規表現に一致する行までスキップし、1画面分の出力行を表示します。正規表現の複数回の繰り返しで行を検索する場合は、オプションの <i>count</i> 引数を使用します。このコマンドにより、他のコマンドで使用可能な現在の正規表現が設定されます。 |
| [count]n           | 現在の正規表現に次に一致する行までスキップし、1画面分の出力行を表示します。複数の一致をスキップする場合は、オプションの <i>count</i> 引数を使用します。   |
| {! :![shell-cmd]}  | <i>shell-cmd</i> 引数に指定したコマンドをサブシェルで実行します。   |
| .                  | 前のコマンドを繰り返します。  |

## コマンド履歴の使用方法

Cisco NX-OS ソフトウェアの CLI では、現在のユーザセッションのコマンド履歴にアクセスできます。コマンドを呼び出し、そのまま再実行できます。また、実行前に修正することも可能です。コマンド履歴はクリアすることもできます。

## CLI 確認プロンプトのイネーブルまたはディセーブル

多くの機能について、作業を続行する前に確認を求めるプロンプトが、Cisco NX-OS ソフトウェアによって CLI に表示されます。これらのプロンプトをイネーブルにしたり、ディセーブルにしたりできます。デフォルトではイネーブルになっています。

### 手順の概要

#### 1. [no] terminal dont-ask [persist]

### 手順の詳細

#### 手順

|        | コマンドまたはアクション                            | 目的   |
|--------|---|--|
| ステップ 1 | [no] terminal dont-ask [persist]<br>例 : | CLI 確認プロンプトをディセーブルにします。 <b>persist</b> キーワードを使用すると、現在のユーザー名の設定 |

|  | コマンドまたはアクション                           | 目的   |
|--|--|--|
|  | <code>switch# terminal dont-ask</code> | <p>がセッション間で保持されます。デフォルトではイネーブルになっています。</p> <p>CLI 確認プロンプトをイネーブルにするには、コマンドの <b>no</b> 形式を使用します。</p> |

## CLI 画面の色の設定

表示する CLI の色は次のように変更できます。

- 直前のコマンドが成功した場合は、プロンプトが緑色で表示されます。
- 直前のコマンドが失敗した場合は、プロンプトが赤色で表示されます。
- ユーザ入力は青色で表示されます。
- コマンド出力はデフォルトの色で表示されます。

デフォルトの色は、ターミナルエミュレータ ソフトウェアにより設定された色です。

### 手順の概要

#### 1. `terminal color [evening] [persist]`

### 手順の詳細

#### 手順

|        | コマンドまたはアクション  | 目的  |
|--------|---|---|
| ステップ 1 | <p><code>terminal color [evening] [persist]</code></p> <p>例 :</p> <pre>switch# terminal color</pre> | <p>ターミナルセッションに対して CLI 画面の色を設定します。<b>evening</b> キーワードはサポートされていません。<b>persist</b> キーワードを使用すると、現在のユーザー名の設定がセッション間で保持されます。デフォルト設定は保持されません。</p> |

## モジュールへのコマンドの送信

**slot** コマンドを使用して、スーパーバイザモジュールセッションからモジュールにコマンドを直接送信できます。

**slot** の構文は次のとおりです。

**slot slot-number [quoted] command-string**

デフォルトでは、*command-string* 引数内のキーワードと引数はスペースで区切られます。モジュールに複数のコマンドを送信するには、スペース文字、セミコロン (;)、スペース文字でコマンドを区切ります。

**quoted** キーワードは、コマンドストリングの先頭と末尾に二重引用符 (") が使用されることを示します。スーパーバイザモジュールセッションでだけサポートされている **diff** などのフィルタリングユーティリティにモジュールコマンド出力をリダイレクトする場合は、このキーワードを使用します。

次の例では、モジュール情報を表示したり、フィルタリングしたりする例を示します。

```
switch# slot 1 show version | grep lc
```

次に、スーパーバイザモジュールセッションに関するモジュール情報をフィルタリングする例を示します。

```
switch# slot 1 quoted "show version" | diff
switch# slot 4 quoted "show version" | diff -c
*** /volatile/vsh_diff_1_root_8430_slot__quoted_show_version.old      Wed Apr 29
20:10:41 2009
--- -      Wed Apr 29 20:10:41 2009
*****
*** 1,5 ****
! RAM 1036860 kB
! lc2
  Software
    BIOS:      version 1.10.6
    system:    version 4.2(1) [build 4.2(0.202)]
--- 1,5 ----
! RAM 516692 kB
! lc4
  Software
    BIOS:      version 1.10.6
    system:    version 4.2(1) [build 4.2(0.202)]
*****
*** 12,16 ****
  Hardware
    bootflash: 0 blocks (block size 512b)

!   uptime is 0 days 1 hours 45 minute(s) 34 second(s)
--- 12,16 ----
  Hardware
    bootflash: 0 blocks (block size 512b)

!   uptime is 0 days 1 hours 45 minute(s) 42 second(s)
```

## BIOS ロードー プロンプト

スーパーバイザモジュールの起動時に、特殊な BIOS イメージが、システム起動用の有効なキックスタートイメージを自動的にロードしたり、検索しようとしたります。有効なキックスタートイメージが見つからない場合は、次の BIOS ロードー プロンプトが表示されます。

```
loader>
```

<loader>プロンプトから Cisco NX-OS ソフトウェアをロードする方法については、ご使用のデバイスの『Cisco Nexus troubleshooting guide (Cisco Nexus トラブルシューティング ガイド)』を参照してください。

## CLI の使用例

ここでは、CLI の使用例を示します。

## CLI に関するその他の参考資料

ここでは、CLI に関する追加情報について説明します。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。